

## 新約聖書 マタイによる福音書 2章 1節—12節（新共同訳）

<sup>1</sup>イエスは、ヘロデ王の時代にユダヤのベツレヘムでお生まれになった。そのとき、占星術の学者たちが東の方からエルサレムに来て、<sup>2</sup>言った。「ユダヤ人の王としてお生まれになった方は、どこにおられますか。わたしたちは東方でその方の星を見たので、拝みに來たのです。」<sup>3</sup>これを聞いて、ヘロデ王は不安を抱いた。エルサレムの人々も皆、同様であった。<sup>4</sup>王は民の祭司長たちや律法学者たちを皆集めて、メシアはどこに生まれることになっているのかと問い合わせた。<sup>5</sup>彼らは言った。「ユダヤのベツレヘムです。預言者がこう書いています。<sup>6</sup>『ユダの地、ベツレヘムよ、／お前はユダの指導者たちの中で／決していちばん小さいものではない。お前から指導者が現れ、／わたしの民イスラエルの牧者となるからである。』」<sup>7</sup>そこで、ヘロデは占星術の学者たちをひそかに呼び寄せ、星の現れた時期を確かめた。<sup>8</sup>そして、「行って、その子のことを詳しく調べ、見つかったら知らせてくれ。わたしも行って拝もう」と言ってベツレヘムへ送り出した。<sup>9</sup>彼らが王の言葉を聞いて出かけると、東方で見た星が先立って進み、ついに幼子のいる場所の上に止まった。<sup>10</sup>学者たちはその星を見て喜びにあふれた。<sup>11</sup>家に入ってみると、幼子は母マリアと共におられた。彼らはひれ伏して幼子を拝み、宝の箱を開けて、黄金、乳香、没薬を贈り物として献げた。<sup>12</sup>ところが、「ヘロデのところへ帰るな」と夢でお告げがあったので、別の道を通って自分たちの国へ帰って行った。

※第1朗読と第2朗読は末尾に掲載

## 説教「星を見た」

「イエスは、ヘロデ王の時代にユダヤのベツレヘムでお生まれになった」（マタイ 2:1）。この言葉で始まる本日の福音書は、救い主イエスの誕生について記しています。

メシアの誕生を祝って最初に幼子イエスを拝みに来たのは、遠い東の国の異邦人である占星術の学者たちでした。異邦人はユダヤ人から、神とは全く関わりのない人たちだと思われていました。しかし、メシアの誕生を祝うために初めに拝みに来たのが異邦人であることは、神の救いに国境などの境界線はなく、すべての人間にキリストの救いが注がれることを示しています。

メシアの誕生は、そこからはるか離れた「東方」において知られました。学者たちは、メシア誕生における新しい時代の到来を、夜空に出現した星によって知りました。彼らは、エルサレムに行けばすべてが分かると信じて、はるばるやって来ます。そしてエルサレムに到着した学者たちは、「ユダヤ人の王としてお生まれになった方は、どこにおられますか」と尋ねて回り、それがヘロデ王の耳に入りました（マタイ 2:2-3）。

ヘロデ王（在位 前37年—前4年）は、ユダヤの広大な領土を支配する王として君臨し、エルサレム神殿の大規模な改築工事をし、自分こそが預言された救

い主であるかのようにふるまっていた独裁者でした。

占星術の学者たちから「ユダヤ人の王」の誕生を聞いたヘロデは不安を抱きました。エルサレムの人々も皆、同様でした（マタイ 2:2-3）。

自分の地位が脅かされることへの恐れで、ヘロデが不安を抱くことは分かります。しかしエルサレムの人々もメシアの誕生の知らせに不安を抱いたとは、どういうことでしょうか。ヘロデ王の残虐さをよく知っていたエルサレムの人々は、ヘロデが今度はどのような行動に出るかと不安を感じたのです。ヘロデは、自分の実の息子たちのうちの数名も、身を脅かす存在として処刑していたような人物だったからです。

ヘロデは、祭司長たちや律法学者たちを皆集めて、メシアがどこに生まれることになっているかを問いただしました。そこで彼らは、聖書の預言（ミカ 5:1）にもとづいて「ユダヤのベツレヘムです」と答えましたが、そのお方を拝みに行こうとはしませんでした。自分たちの身を守るためです。

ヘロデは、占星術の学者たちをひそかに呼び寄せ、彼らにこう言います。「行って、その子のことを詳しく調べ、見つかったら知らせてくれ。わたしも行って拝もう」（マタイ 2:8）。

ヘロデが言った「わたしも行って拝もう」という言葉は、策略であり、とても本心とは思えないものです。学者たちを騙して、自分の地位を脅かす存在であるその子供の居場所を突き止め、始末しようという気持ちが伺えます。

ヘロデ王からベツレヘムに送り出された学者たちが出かけると、東方で見た星が再び現れ、先立って進み、彼らを幼子イエスのところに導きました（マタイ 2:9）。

星がついに幼子イエスのいる場所の上に止まった時、学者たちはその星を見て喜びにあふれました（マタイ 2:10）。

占星術の学者たちが何名であったかは、聖書には書いていないのですが、イエスに献げた贈り物が黄金、乳香、没薬と三つであったことから、おそらく三名であると考えられ、さまざまな伝説や物語が生まれました。

二十世紀のアメリカの作曲家メノッティの作品に、『アマールと夜の訪問者』というオペラがあります。

この物語の主人公のアマールは、杖なしでは歩くことのできない足の不自由な少年でした。アマールは母親と二人で、経済的に行き詰った貧しい状況で暮らしていました。東の空に大きな星が輝く夜、宝の箱を持った三人の旅人が、一夜の宿を求めてアマールの家を訪ねて来ました。

旅人は言いました。「私たちは星の知らせで、救い主がお生まれになったこと

を知ったのです。私たちは、この宝物をその救い主に献げに行くところなのです」。

アマールは、自分も一緒に献げ物をしに行きたいと母親に言います。うちに献げるもののなんて何もないと言う母親にアマールは、自分の杖を献げると答えます。

それを献げてしまったら、これからどうやって歩くつもりなのかと反対する母親に、アマールはこう言います。「だってこれが、僕の一番大切なものだから。僕はこの杖を献げるんだ」。そう言ってアマールは杖を両手で掲げて、旅の方へ近づいて行きました。その時、アマールは杖なしで歩けたことに気がつきます。

不思議なことにアマールは、自分にとって何よりも大切な杖を献げると決心した瞬間から、杖なしで歩けるようになったのです。そしてアマールは、三人の旅人と一緒に救い主に杖を献げに旅に出ました。

献げることは、失うことではありません。マルティン・ルターは、幼子イエスに、黄金・乳香・没薬を献げた学者たちは、信仰と希望と愛を献げたのだと言います。そして主イエス・キリストに献げたそれらは、あふれんばかりの豊かな恵みと祝福になって自分自身に返ってくるのです。

アマールは、自分にとって一番大切なものを主に献げました。あなたにとって、一番大切なものは何でしょうか。それは、自分の命ではないでしょうか。

新しい年 2026 年となりました。私たちは、キリストに自分の命を献げながら日々を生きていきましょう。私たちは日々、キリストに愛と喜びと希望を贈りましょう。愛の喜びがあふれた時、そこには愛の奇跡が起きるのです。

私たちは、夜空に光輝く星をいつも見上げつつ、この地上に生きる喜びと共に、新しい一年を、神への賛美と祈りのうちに歩んで行きましょう。

お祈りをいたします。

天の父なる神様。あなたの御子は、闇の中に輝く光としてこの世にお生まれになりました。私たちの前に顕してくださったその輝きを、私たちが心でも深く受け止めることができますように。御子イエス・キリストによって祈ります。アーメン

\*\*\*\*\* 説教ここまで \*\*\*\*\*

以下、本日に関連する聖書箇所（第1朗読と第2朗読）です。

### 旧約聖書 イザヤ書 60章1節—6節（新共同訳）

<sup>1</sup>起きよ、光を放て。あなたを照らす光は昇り／主の栄光はあなたの上に輝く。  
<sup>2</sup>見よ、闇は地を覆い／暗黒が国々を包んでいる。しかし、あなたの上には主が輝き出で／主の栄光があなたの上に現れる。<sup>3</sup>国々はあなたを照らす光に向かい／王たちは射し出でるその輝きに向かって歩む。<sup>4</sup>目を上げて、見渡すがよい。みな集い、あなたのものとに来る。息子たちは遠くから／娘たちは抱かれて、進んで来る。<sup>5</sup>そのとき、あなたは畏れつつも喜びに輝き／おののきつつも心は晴れやかになる。海からの宝があなたに送られ／国々の富はあなたのものとに集まる。<sup>6</sup>らくだの大群／ミディアンとエファの若いらくだが／あなたのものとに押し寄せる。シェバの人々は皆、黄金と乳香を携えて来る。こうして、主の栄誉が宣べ伝えられる。

### 新約聖書 エフェソの信徒への手紙 3章1節—12節（新共同訳）

<sup>1</sup>こういうわけで、あなたがた異邦人のためにキリスト・イエスの囚人となっているわたしパウロは……。<sup>2</sup>あなたがたのために神がわたしに恵みをお与えになった次第について、あなたがたは聞いたにちがいありません。<sup>3</sup>初めに手短に書いたように、秘められた計画が啓示によってわたしに知らされました。<sup>4</sup>あなたがたは、それを読めば、キリストによって実現されるこの計画を、わたしがどのように理解しているかが分かると思います。<sup>5</sup>この計画は、キリスト以前の時代には人の子らに知らされていませんでしたが、今や“靈”によって、キリストの聖なる使徒たちや預言者たちに啓示されました。<sup>6</sup>すなわち、異邦人が福音によってキリスト・イエスにおいて、約束されたものをわたしたちと一緒に受け継ぐ者、同じ体に属する者、同じ約束にあずかる者となるということです。<sup>7</sup>神は、その力を働かせてわたしに恵みを賜り、この福音に仕える者としてくださいました。<sup>8</sup>この恵みは、聖なる者たちすべての中で最もつまらない者であるわたしに与えられました。わたしは、この恵みにより、キリストの計り知れない富について、異邦人に福音を告げ知らせており、<sup>9</sup>すべてのものをお造りになった神の内に世の初めから隠されていた秘められた計画が、どのように実現されるのかを、すべての人々に説き明かしています。<sup>10</sup>こうして、いろいろの働きをする神の知恵は、今や教会によって、天上の支配や権威に知らされるようになったのですが、<sup>11</sup>これは、神がわたしたちの主キリスト・イエスによって実現された永遠の計画に沿うものです。<sup>12</sup>わたしたちは主キリストに結ばれており、キリストに対する信仰により、確信をもって、大胆に神に近づくことができます。

教会讃美歌 202番「東の空」、184番「きよき石よ」、256番「すがたは見えねど」、200番「まことの神よ」。